⑹ 昆虫類　⑤ ハエ目

ハエ目の昆虫は日本には 124 科、1,668 属、7,658 種（日本昆虫総目録，2014）が生息し、埼玉県からはこれまでに 89 科 1,921 種が記録されている。しかしハエ目の昆虫は小型な種類が多いこと、地味な色彩の種類が多いこと、同定が比較的難しく、かつ一般的図鑑に掲載されている種類が少ないことなどから分布資料といったデータが少ない。このため大型種や美麗な種を除き普通種か希少種かさえわからないこともしばしばある。特に小型で地味な種が多い分類群では、どのような種が生息しているのか十分に調査が進んでいない。

埼玉県におけるハエ目の記録は『埼玉県動物誌（1978)』『埼玉県昆虫誌 II 双翅目（1997)』という 2 つの文献に“全県にわたる記録種”が整理されており、これらに代表される数々の報文により、他県との比較において埼玉県のハエ目のファウナ解明度は比較的高いと言える。

本書を刊行するにあたり、そこから外来種や迷入種など 10 種を除いた 1,911 種を対象に本県における生息状況を調査した結果、その約 3%にあたる 52 種をレッドリスト掲載種とした。

これまでのハエ目昆虫の掲載種数の変遷をみると、初版と改訂版の 65 種、前版での 49 種、そして本書の 52 種と、増減がある。改訂版から前版にかけて種数が大幅に減少しているが、これは初版・改訂版の掲載種のうち、生息状況に関する情報が少なく本当に絶滅が危惧されているか否か判断できなかった種や、調査不足の可能性が高い種、また外来種と思われる種などをリストから外したことが主因となっている。第 4 版にあたっては、一旦リスト外とした種についても調査を実施し、再評価を行った結果、2 種（ハマダラハルカ・カオグロオオモモブトハナアブ）を再び掲載種とし、更に新たに 2 種（ニッポンクモガタガガンボ・オオナガハナアブ）を追加した。また前版の掲載種のうち 1 種は分類学上の取り扱いが変更したことによりリスト外とした。前版発行以降、本県の自然環境は他の都道府県と同様に開発が進んでおり、ハエ目の昆虫の生息に適した環境も減少が続き、特に池や湿地の悪化は著しいが、生息状況の変化を数値的に把握できていないため、評価は定性的なものとなった。

ハエ目昆虫の成虫の生態は、一般には腐敗物や排泄物などの汚物に集まっている印象を持たれているが、実際にこのような種は一部に限られ、必ずしも正しくない。花に集まる種、水辺・浜辺だけに集まる種、樹液に集まる種、鳥類やほ乳類に外部寄生する種など様々である。また幼虫の多くは脚が退化するウジ虫状の形態をしているが、その食性も様々で、昆虫・軟体動物・鳥類・哺乳類等に外部・内部寄生する種、腐食物を摂食する種、生きた植物・菌類を摂食する種、朽木を摂食する種、捕食性の種、虫コブを作り摂食する種、など多岐にわたっている。

これら多様なハエ目希少種の埼玉県における環境区分別の生息状況については次のとおりとなる。

低地帯では、休耕田、河川敷、池やその周辺でフタスジヤチバエやカエルキンバエなどの希少種の生息が確認されている。これらの種が好む水辺や河川敷の草むらは比較的市街地に近いことが多く、住宅地・商業地やスポーツグラウンドなどとして活用しやすいため消滅しやすく、十分

な配慮が必要である。

同じ平地でも、雑木林とその周辺ではハチモドキハナアブやシコクモモブトホソハナアブ、スズキベッコウハナアブなど大型～中型のハナアブが見いだせる。例えばベッコウハナアブ類では、幼虫期にはスズメバチ類の巣中に寄生するため、スズメバチ類が生息しないと発生できないが、スズメバチの巣は危険な一面を持っているため駆除の対象である。また、一部のハナアブ類の幼虫は朽木中で成長するため、公園などにしばしばみられるような“林床が綺麗に整地され裸地のようになった雑木林”では次世代が残せない。このように、緑が多い公園であっても単純に林や草花が植えてあるだけではこれらの種は生息できない。ハエ目の種はそれぞれに独自の生活史を持っており、人間側の都合だけで管理する都市公園のような環境では生息できる種は限られてしまう。

埼玉県の山地帯・低山帯・台地・丘陵帯ではスギの単純林が目立つが、スギ林は林床植生も貧弱であることが多く、このような環境では多様なハエ目は生息できない。緑が豊かな割には、動植物の多様性が乏しいからである。多種の樹木で構成された混交林で、かつ草原や川・湿地が入り混じったような環境は、里山の減少と共に失われつつあるが、そこではトワダオオカ、マツムラヒメアブ、スズキハラボソツリアブ、プサロクロハナアブ、オオナガハナアブ、イボハチモドキバエなど希少な種が生息を続けており、更に高標高の亜高山帯にかけての限られた生息環境にはニッポンクモガタガガンボやフタホシヒゲナガハナアブ等の貴重な種類が生息を続けている。

埼玉県におけるハエ目の中で、個体数の減少など危機に瀕している種は、今回レッドランクの対象とされた種に限られるわけではなく、これまで当たり前だった環境が急変した際には、現在の普通種が突然絶滅の危機に陥る可能性もある。しかし、残念ながら、ハエ目の昆虫の調査記録が少なく、そのこと自体を捉えにくいのが現状である。

今後より詳細な調査が進み、ハエ目の生息状況が把握されることで、種別の個体数動向が明確に認識されることに期待したい。

［付記］次ページ以降の種ごとの解説における国内分布に関する項目は、原則、日本昆虫目録 第8巻 双翅目（2014）を参照した。

科　名　アブ科

埼玉県(2018)　VU　環境省(2015)　－

〔和　名〕 **タイワンヒメアブ**

〔学　名〕 *Silvius* (*Neosilvius*) *formosensis* Ricardo

指定状況　－

【形　態】 体長８～9mm。体色は黄金色で、胸部背面には淡色縦条を備える。額瘤は痕跡的か全くない。翅には横斑が無く透明。

【国内分布】 本州、四国、南西諸島

【主な生息環境】 埼玉県では台地・丘陵帯にあたる場所で記録されたのみ。全国的にも記録は少なく、生息環境についての情報は見あたらない。

【県内での生息状況】 これまでの記録は皆野町での記録のみ。非常に少ない種と思われる。

【特記事項】 近年、本県だけでなく、近県でも記録が得られていない。マツムラヒメアブに似ているが、タイワンヒメアブの額瘤は痕跡的か全く無いことで明確に区別できる。

科　名　ムシヒキアブ科

埼玉県(2018)　VU　環境省(2015)　－

〔和　名〕 **エダヒゲムシヒキ**

〔学　名〕 *Myelaphus dispar* (Loew)

指定状況　－

【形　態】 体長約 14mm。光沢のある黒色の種で、触角は長く、第３・４節は扁平な２葉に分岐伸長する。翅の基部前縁側は暗色を呈し、腿節端部と脛節基半部は黄褐色。

【国内分布】 北海道、本州、四国

【主な生息環境】 “一般にはブナ帯かそれ以上（の標高）に生息すると思われるが詳細不明”とされるが（春澤，1998)、埼玉県では平地の雑木林で得られている。この事から、本来の分布範囲は非常に広いことが推測される。また、本種は他のムシヒキアブより上の空間（地面から３m程度）を利用している可能性が指摘されている。

【県内での生息状況】 これまでの記録は、三芳町での１件のみ。平地に広く生息するのであれば、もっと多くの記録があって良いと思われることから、生息地は局限されており、その個体数は非常に少ないものと思われる。

【特記事項】 近年、本県だけでなく、関東近県でも記録が得られていない。触角が長い種としてカワムラヒゲボソムシヒキやかなり小型のハラボソムシヒキがいるが、この種は触角第３・４節が扁平な２葉に分岐伸長する事は無い。

科　名　ハナアブ科

埼玉県(2018)　VU　環境省(2015)　－

〔和　名〕 **プサロクロハナアブ**

〔学　名〕 *Psarochilosia djakonovi* Stackelberg

指定状況　－

【形　態】 体長約 7mm。体色は黒色で、メスの腹部背面は広く黄褐色から赤褐色となる。前額は目立って強く前方に突出する。

【国内分布】 本州

【主な生息環境】 埼玉県では、台地・丘陵帯に生息する。本種は全国的にもわずかな個体しか得られていないため、生態の詳細は不明。

【県内での生息状況】 これまでの記録は越生町での１記録のみ。非常に少ない種と思われる。生息には植物相が豊かな草地・水辺を備えた混交林が必要と思われる。近年、本県だけでなく、近県でも記録も極めて少ないことから、今回から VU にランクを変更した。

【特記事項】 １属１種の特異な種で、記録されている都道府県は、埼玉、茨城、東京、京都のみ。

科　名　デガシラバエ科

埼玉県(2018)　VU　環境省(2015)　－

〔和　名〕**イボハチモドキバエ**

〔学　名〕*Adapsilia verrucifer* Hendel

指定状況　－

【形　態】体長約 8mm。メスの産卵管の基部環節が側面から見て真っすぐで、末端背面にカギ状の 1 隆起がある。翅には複数の褐色斑がある。

【国内分布】本州

【主な生息環境】埼玉県では、低山帯に生息する。生態はわかっていないが、これまでの国内の記録はすべてライトに飛来した個体を得たものである（市毛，1999）。

【県内での生息状況】これまでの記録は、秩父市の 1 例のみ。個体数は非常に少ないと思われ、他県での記録もごくわずかしかない。近年、本県だけでなく、関東近県でも記録が得られていないことから、今回から VU にランクを変更した。

【特記事項】埼玉県以外の 3 つの記録は 1,300 ～ 1,500m の標高で得られており、埼玉県でも山地帯にまで分布している可能性がある。

科　名　ヤチバエ科

埼玉県(2018)　VU　環境省(2015)　－

〔和　名〕**クマドリホソバネヤチバエ**

〔学　名〕*Dichetophora kumadori* Sueyoshi

指定状況　－

【形　態】体長 6.5 ～ 11mm。前額は強く前方へ突出し、複眼前方と上方に黒紋を備える。翅には網目状に並ぶ楕円斑がある。

【国内分布】本州

【主な生息環境】埼玉県では、低山帯に生息する。渓流の岸辺の茂みなどに生息すると思われるが、詳しい生態は不明。

【県内での生息状況】これまでの記録は、秩父市の 1 例のみ。個体数維持には、植物相が豊かな草地・混交林に囲まれた渓流が必要と思われる。

【特記事項】近年、本県だけでなく、全国的に記録がほとんど得られていない。翅の網目状の楕円斑は、近似のヤマトホソバネヤチバエ（埼玉未記録）と似るが、クマドリホソバネヤチバエは小楯板に 1 対の刺毛のみを備える点で、ヤマトホソバネヤチバエと区別できる。

科　名　ヤチバエ科

埼玉県(2018)　VU　環境省(2015)　－

〔和　名〕**チョウセンキタヤチバエ**

〔学　名〕*Tetanocera chosenica* Steyskal

指定状況　－

【形　態】体長 9 ～ 10mm。体色は黄褐色で、触角第 2 節にはヤチバエに良く見られるような伸長は見られず、短い。翅は透明である。

【国内分布】北海道、本州、四国

【主な生息環境】埼玉県では、台地・丘陵帯に生息する。春～夏に発生し、池・湿地・休耕田の周辺部のヨシ原などの環境を好む。本属の幼虫は一般に、水生貝類やナメクジ類を捕食するとされているが（末吉，2005）、本種固有の生態は不明。

【県内での生息状況】これまでに、小川町の記録がある。市街地に近い池や湿地は、より経済性の高い利用方法を模索する中で格好の開発対象地となってきたが、本種の個体数維持には池や湿地は極めて重要である。

【特記事項】近年、本県だけでなく、近県でも記録が得られていない。これまでに埼玉県では近縁種の記録は無いが、本属の各種はよく似ており、同定には注意が必要。交尾器の形態確認が欠かせない。

科　名　ニクバエ科

埼玉県(2018)　VU　環境省(2015)　－

〔和　名〕 **フルトネニクバエ**

〔学　名〕 *Myorhina* (*Nudicera*) *furtonensis* (Kano et Okazaki)

指定状況　－

【形　態】 体長 6.5 ～ 7.5mm。小型のニクバエで、phallus の形状はこぶし状。

【国内分布】 本州

【主な生息環境】 埼玉県では、中川・加須低地に生息する。6 月・9 月に川沿いの草むらで発生すると思われ、タニシ、アメリカザリガニ、ナマズなどの死がいに集まることが記録されている。

【県内での生息状況】 これまでに、吉川市の記録がある。過去には大場川沿いに多産していた記録があるが、近年の調査では全く確認できなかった。河川沿いや周辺の水田の水路などが整備される事で、生息に適した環境が失われつつあると思われる。

【特記事項】 近年、本県だけでなく、全国的に記録が得られていない。ニクバエ科のほとんどは外観から区別する事は困難なほど良く似ているが、オス交尾器の形状は極めて多様。本種の同定には phallus の確認が必要。

科　名　ガガンボ科

埼玉県(2018)　NT1　環境省(2015)　－

〔和　名〕 **ニッポンクモガタガガンボ**

〔学　名〕 *Chionea nipponica* Alexander

指定状況　－

【形　態】 体長 3 ～ 6mm。前翅も退化した無翅の種で、ガガンボとしては脚は短く太い。

【国内分布】 北海道、本州

【主な生息環境】 本州では山地帯（上部）、亜高山帯、高山帯という標高の高い限られた場所にのみ分布する種。生息地が雪に覆われた 11 月頃から成虫が現れ、雪上を歩行して活動する。凍死の危険がある “-10℃を下回る低温 ” に対しては、樹幹部際の雪の溶けた隙間に潜み、このリスクを回避している（巣瀬，1986）。

【県内での生息状況】 これまでに、秩父市の白石山からのみ記録されている。積雪時の高標高地は、現地に行くことそのものが困難である事もあり、全国的にも記録は少ない。埼玉県では生息適地は狭いながら、高標高エリアに少数個体群が生息しているものと考えられる。

【特記事項】 無翅の種であること、高標高エリアは連続性が少ないことなどから、今後の分布拡大はほぼ期待できない。現存する生息地の環境安定化が重要である。

科　名　ハルカ科

埼玉県(2018)　NT1　環境省(2015)　DD

〔和　名〕 **ハマダラハルカ**

〔学　名〕 *Haruka elegans* Okada

指定状況　－

【形　態】 体長 7 ～ 11mm。全体黒色の種で、外観はガガンボ類を思わせる。翅には白色の小斑紋が多数ちりばめられ特異的。

【国内分布】 本州、四国、九州　（日本固有種）

【主な生息環境】 埼玉県では台地・丘陵帯に生息し、全国的には低地から標高 1,500 m程度の落葉広葉樹林～照葉樹林に生息する。早春から 5 月にかけて発生し、オスは林間で飛び石的に飛翔と静止を繰り返す。幼虫期は枯木・朽木の中に坑道を作って成長するとされ、具体的にはネムノキとカシ類が報告されているが、その他の樹種も利用していると推測される（三枝，2004 他）。

【県内での生息状況】 これまでに寄居町、飯能市、毛呂山町、日高市、長瀞町で記録があるが局地的。里山の荒廃による個体数減少が危惧される。

【特記事項】 類似した種はいないので同定は容易。ハルカ科の種は世界に 3 種のみとされており、1 種はロシア沿海州、1 種は北米に分布する。第四期の地球規模の寒冷化の結果、隔離分布となった東亜北米型分布の科である。

科　名　カ科

埼玉県(2018)　NT1　環境省(2015)　－

〔和　名〕 **トワダオオカ**

〔学　名〕 *Toxorhynchites* (*Toxorhynchites*) *towadensis towadensis* (Matsumura)

指定状況　－

【形　態】 体長 7.5 ～ 10.5mm の日本最大のカ。体表に青藍色や橙色の鱗毛を備えた美麗種で、口吻は下方へ強く湾曲する。

【国内分布】 北海道、本州、四国、九州、南西諸島

【主な生息環境】 埼玉県では台地・丘陵帯、低山帯、山地帯の古木や大木のある暗い森林に生息し、初夏から秋に発生する。開けた明るい林床は生息に適さない。幼虫は、樹洞の水溜まりで他種のボウフラ等を摂食して成長する。竹の切り株や古タイヤなどにできた水溜りで発生することもある。成虫は雌雄ともに吸血性は無く、花蜜を吸う（堀尾，2002 他）。大木の樹幹に静止する成虫の様子がしばしば報告されている。

【県内での生息状況】 これまでに神川町、飯能市、ときがわ町、秩父市の記録があるが、局地的であり、個体数は少ないと思われる。古木の伐採や暗い森林の破壊は個体数減少の要因となる。

【特記事項】 亜種にオキナワオオカがおり、沖縄本島に分布するが、形態的な差は小さい。

科　名　キアブ科

埼玉県(2018)　NT1　環境省(2015)　－

〔和　名〕 **ホシキアブ**

〔学　名〕 *Xylophagus matsumurai* Miyatake

指定状況　－

【形　態】 体長 7.5 ～ 14mm。光沢のある黒色の体色で、やや細長い体形。頭部の単眼区前に灰黄粉の横帯がある。触角は黒く、第 1 節の長さは幅の 3 倍を超える。

【国内分布】 北海道、本州、四国、九州

【主な生息環境】 埼玉県では 5 ～ 7 月に山地で発生するが、生息環境はよくわかっていない。近縁種の幼虫は朽木中に生息するとされる事から、本種も類似の生活史を持つ可能性がある。

【県内での生息状況】 これまでに秩父市で記録されているのみ。一方で近県での報告は少ないながら散見される事から、県内での調査不足の感は払拭できない。

【特記事項】 キアブ科の種は日本に 4 種のみで、いずれも個体数は多くない。

科　名　ツルギアブ科

埼玉県(2018)　NT1　環境省(2015)　－

〔和　名〕 **サッポロツルギアブ**

〔学　名〕 *Pandivirilia sapporensis* (Matsumura)

指定状況　－

【形　態】 体長 14 ～ 17mm。体・翅共に細長い種で、中基節後方に毛群あり、腿節に白鱗を持たない。また、前額下方部と額の側部には毛を欠く。

【国内分布】 北海道、本州

【主な生息環境】 埼玉県では低山帯～山地帯に生息し、春に発生する。本県で記録された個体は山中の道で得られている。生息環境・生態は不明ながら、一般にツルギアブ科の種は河川や海岸周辺で得られることが多い（冨永・大石，2002）ので、水辺環境と関連している可能性がある。

【県内での生息状況】 これまでに秩父市、飯能市の記録がある。発生時期が限られており、発生が確認し難いものと思われる。

【特記事項】 日本昆虫目録・ハエ目（2014）では、北海道のみの分布と記載されている。本州での記録地は埼玉県のみであるが、この記録は反映されていない。

科　名　ハナアブ科

埼玉県(2018)　NT1　環境省(2015)　－

〔和　名〕 **フタホシヒゲナガハナアブ**

〔学　名〕 *Chrysotoxum biguttatum* Matsumura

指定状況　－

【形　態】 体長 12 ～ 13mm。触角は長い。体色は黒く、胸背部側縁は黄色。腹部の第 2 節・第 4 節に中央が途切れた黄色の太い横帯を備え、第 3・第 5 節には目立たない細い黄帯がある。

【国内分布】 北海道、本州

【主な生息環境】 埼玉県では亜高山帯に生息し、夏に発生する。生息エリアはその標高から必然的に限定される。

【県内での生息状況】 これまでに秩父市の大滝、雁坂峠、十文字峠で記録されている。現地調査が行いにくいエリアであるため、近年の記録は見あたらない。

【特記事項】 斑紋が特徴的であるため同定は容易。

科　名　ハナアブ科
〔和　名〕 **シコクモモブトホソハナアブ**
〔学　名〕 *Myolepta shikokuana* Shiraki

埼玉県(2018) NT1　環境省(2015) －
指定状況 －

【形　態】 体長約 9mm。黒色の体色で多少の灰白粉で覆われる。翅は縁紋の基部に暗色斑を備え、前縁先端付近は暗色を呈する。
【国内分布】 本州、四国
【主な生息環境】 埼玉県では、春に大宮台地、台地・丘陵帯で記録されている。川沿いや湿地付近で見つかっており、水辺環境を好んでいると思われる。
【県内での生息状況】 これまでに、毛呂山町、川口市の記録があるが局地的で少ない。どちらかと言えば低地に生息する里山種と思われる。植物相が豊かな草地・水辺を備えた混交林の里山が本種の個体数維持には重要と思われるが、特に平地では消失が進んでいる。
【特記事項】 本種は 1968 年の原記載依頼、1985 年の埼玉県毛呂山町の記録までの期間、記録が途切れていた種で、現在でも全国的にも記録が少ない。

科　名　ハナアブ科
〔和　名〕 **ケブカハチモドキハナアブ**
〔学　名〕 *Primocerioides petri* (Herve-Bazin)

埼玉県(2018) NT1　環境省(2015) －
指定状況 －

【形　態】 体長 12mm 内外。体色は黒、腹部第 2・第 3・第 4 節に橙黄色の横帯を備える。額突起はあるが低い。
【国内分布】 本州、四国、九州
【主な生息環境】 埼玉県では、台地・丘陵帯～低山帯に生息し、春早い 3 月末～ 4 月に現れる。明るい林縁などで、陽のあたった樹幹や石で静止している様子がしばしば確認されている。植物相が豊かな草地・水辺を備えた混交林を生息地としているようであるが、生態は不明。山頂部や小高いピークに飛来するという報告もある。
【県内での生息状況】 これまでに、小鹿野町、毛呂山町の記録がある。発生時期が早いために調査が行き届かず、記録報告が少ない可能性もあるが、全国的にも記録は少ない。
【特記事項】 他県の記録においても、午前中に日向で日光浴をしている様子が報告されており、生態調査時に留意したい。

科　名　ハナアブ科
〔和　名〕 **アシボソミケハラブトハナアブ**
〔学　名〕 *Mallota munda* Violovitsh

埼玉県(2018) NT1　環境省(2015) －
指定状況 －

【形　態】 体長約 20mm。黒色毛と黄色毛のコントラストが美しい大型種。交尾器端葉は先端まで太く、丸味を帯びる。
【国内分布】 北海道、本州、四国、九州
【主な生息環境】 埼玉県では、夏に台地・丘陵帯、低山帯、山地帯で発生する。明るい林縁などで各種植物に訪花する。森林に生息する種で、幼虫は朽木で育つと思われる。
【県内での生息状況】 これまでに、秩父市と嵐山町で記録されている。植物相が豊かな草地・水辺を備えた混交林の維持が、本種の継続発生には重要である。
【特記事項】 いずれも個体数は少ないが、近似種が複数存在するため、同定には注意が必要。

科　名　ハナアブ科
〔和　名〕 **ヨコモンハナアブ**
〔学　名〕 *Blera japonica* (Shiraki)

埼玉県(2018) NT1　環境省(2015) －
指定状況 －

【形　態】 体長 13 ～ 15mm。黒色で紫緑色の光沢があり、腹部背板第 2 ～ 4 節に細い橙色紋を備える。前額は強く突出する。
【国内分布】 北海道、本州、四国、九州
【主な生息環境】 埼玉県では山地帯に生息し、夏に発生する。幼虫期は林床の朽木に生息すると推測されるが、詳しくは不明。
【県内での生息状況】 これまでに秩父市の記録があるが、近年の記録は無い。この内、大滝の記録は誘因トラップにより得られたもの。植物相が豊かな草地・水辺を備えた混交林が生息には欠かせないと思われる。
【特記事項】 近似種の存在が知られており、内 2 種は未記載種。本種は跗節の先 2 節が黒色、後脚腿節下面は淡色長毛のみ、オスの後脚脛節は短く後脚腿長の 3/5 の長さであることで区別できる。

科　名　ハナアブ科
〔和　名〕 **ツマキモモブトハナアブ**
〔学　名〕 *Criorhina apicalis* Matsumura

埼玉県(2018)　NT1　環境省(2015)　－
指定状況　－

【形　態】 体長約 12mm。概ね黒色の毛深い種で、腹部背板第 3 ～ 4 節が橙黄色の長毛で覆われる。
【国内分布】 北海道、本州
【主な生息環境】 埼玉県では低山帯に生息するが、他県の記録を考慮すれば山地帯でも発生していることが推測される。幼虫期は林床の朽木に生息すると思われるが、詳しくは不明。
【県内での生息状況】 これまでに、秩父市で記録があるが、近年の記録は無い。植物相が豊かな草地・水辺を備えた混交林が生息には欠かせないと思われる。
【特記事項】 一見、特徴的な外観であるが、類似の色彩を呈する種はいくつか存在するため、同定には注意が必要。

科　名　ハナアブ科
〔和　名〕 **タカオハナアブ**
〔学　名〕 *Criorhina takaoensis* (Shiraki)

埼玉県(2018)　NT1　環境省(2015)　－
指定状況　－

【形　態】 体長約 15mm。毛深い印象の中型種。黒色で胸部～腹部に淡色～赤褐色の長毛を備える。腿節には淡黄色長毛を備え、後脚腿節は肥大する。
【国内分布】 本州、四国、九州
【主な生息環境】 埼玉県では、台地・丘陵帯に生息し、春に森林で発生する。幼虫期は林床の朽木に生息すると推測されるが、詳しくは不明。
【県内での生息状況】 これまでの記録は、飯能市での 1 例のみで、非常に少ない。成虫は明るい林縁などで活動すると思われる。本種の個体数維持には、植物相が豊かな草地・水辺を備えた混交林が必要と思われる。
【特記事項】 未記載の近似種の存在が報告されており、同定には充分な注意が必要。

科　名　ハナアブ科
〔和　名〕 **コシアキオオモモブトハナアブ**
〔学　名〕 *Matsumyia aponica* (Shiraki)

埼玉県(2018)　NT1　環境省(2015)　－
指定状況　－

【形　態】 体長 15 ～ 16mm。体の大部分が黒色の長毛に覆われ、腹部先端近くは黄色毛で覆われるが、この色彩には変異があり、小楯板から腹背板第 2 節まで白～黄色の部分が広がるタイプや、腹端の黄色部分が拡大するタイプなど様々である（大石・市毛，2004）。
【国内分布】 本州、四国、九州
【主な生息環境】 埼玉県では、台地・丘陵帯に生息するが、恐らく低山帯にも分布していると推測される。植物相が豊かな草地・水辺を備えた混交林で発生し、樹幹部を飛翔して各種木本の花を訪れる。
【県内での生息状況】 これまでに、寄居町、越生町から記録されている。樹幹部を飛翔する生態から、訪花時以外は発見し難いものと思われる。
【特記事項】 本種はマルハナバチ類に擬態している。過去にハラブトハナアブ、コシアカモモブトハナアブとされてたが、現在は本名称に統一された。

科　名　ハナアブ科
〔和　名〕 **オオモモブトハナアブ**
〔学　名〕 *Matsumyia esoensis* (Matsumura)

埼玉県(2018)　NT1　環境省(2015)　－
指定状況　－

【形　態】 体長 15 ～ 18mm。黒色であるが、胸背部は黄褐色の長毛と微粉に、腹部は灰色の微粉と黒短毛に覆われる。
【国内分布】 北海道、本州
【主な生息環境】 埼玉県では、低山帯に生息するが、恐らくそれ以上の標高地帯でも発生している可能性がある。夏に発生し各種植物に訪花する。北海道では普通種とのことであるが、本州での記録はわずか。
【県内での生息状況】 これまでに、秩父市で記録されている。本種の個体数維持には、植物相が豊かな草地・水辺を備えた混交林が欠かせない。
【特記事項】 次種カグロオオモモブトハナアブに良く似ているが、本種の方が顔面下の突出が弱いことで区別できる。またムナキハナアブとは翅脈で容易に区別できる。過去にフェルディナンドオオモモブトハナアブとされた種は本種である、とする説が有力である。

科　名　ハナアブ科
〔和　名〕 **カオグロオオモモブトハナアブ**
〔学　名〕 *Matsumyia nigrofacies* Shiraki

埼玉県(2018) NT1　環境省(2015) －
指定状況 －

【形　態】 体長 16 ～ 20mm。オオモモブトハナアブに非常に似ており、黒色で胸背部・腹部の色彩はほぼ同じ。
【国内分布】 北海道、本州、九州
【主な生息環境】 埼玉県では、低山帯に生息するが、恐らくそれ以上の標高地帯でも発生している可能性がある。オオモモブトハナアブと同様に夏に発生し、各種植物に訪花する。
【県内での生息状況】 これまでに、秩父市で記録されている。本種の個体数維持には、植物相が豊かな草地・水辺を備えた混交林が欠かせない。
【特記事項】 前種オオモモブトハナアブに良く似ているが、本種の方が顔面下の突出が強いことで区別できる。本種の顔は確かに黒いが、オオモモブトハナアブも白色粉が脱落すると黒くなるため、この点での識別は危険。またムナキハナアブとは翅脈で容易に区別できる。

科　名　ハナアブ科
〔和　名〕 **オオナガハナアブ**
〔学　名〕 *Spilomyia gigantean* Shiraki

埼玉県(2018) NT1　環境省(2015) －
指定状況 －

【形　態】 体長 27 ～ 30mm の極めて大きな種。胸背部は黒色、腹部背板は黒色と黄色のしま模様を呈する。翅は、基部から亜先端にかけての中央付近が帯状に暗色。
【国内分布】 北海道、本州、四国、九州
【主な生息環境】 埼玉県では山地帯に生息する。植物相が豊かな草地・水辺を備えた混交林に生息し、陽だまりの植物に訪花する。全国的にも記録が少なく、詳しい生態は不明。
【県内での生息状況】 これまでの記録は、小鹿野町での 1 例のみで、非常に少ない。極めて大きな種であり、安定した個体数維持のためには、広大な混交林が要求されると推測される。
【特記事項】 オオスズメバチに擬態した種で、飛翔時にはすぐにハチかアブか識別できないと思われる。類似の大型種もいるため、同定には注意が必要。

科　名　ハナアブ科
〔和　名〕 **ヨコジマナガハナアブ**
〔学　名〕 *Temnostoma vespiforme* (Linnaeus)

埼玉県(2018) NT1　環境省(2015) －
指定状況 －

【形　態】 体長 18 ～ 20mm の大型種。全体的にジョウザンナガハナアブと似ており、黒い体色に橙黄色の微粉による斑紋と横縞模様を備える。
【国内分布】 北海道、本州、四国、九州
【主な生息環境】 埼玉県では、山地帯に生息する。春～秋に発生し、明るい林縁などで各種植物の花に訪花する。幼虫は朽木中で成長すると思われる。
【県内での生息状況】 これまでに、秩父市の記録がある。本種は個体数維持には植物相が豊かな草地・水辺を備えた混交林が必要と思われる。
【特記事項】 本種はホオナガスズメバチ類に擬態しているとされることがある。飛翔時は非常に良く似ているとされる。ジョウザンナガハナアブと似ているが、本種の顔には太い黒条があることで区別可能。

科　名　ヤドリバエ科
〔和　名〕 **ダイミョウヒラタハナバエ**
〔学　名〕 *Phasia hemiptera* (Fabricius)

埼玉県(2018) NT1　環境省(2015) －
指定状況 －

【形　態】 体長 11 ～ 14mm。腹部背板は平たく扁平で、赤褐色を呈し黒色部分が広がる。翅は三角形で幅広く、特にオスで顕著。
【国内分布】 北海道、本州、四国
【主な生息環境】 埼玉県では、台地・丘陵帯～低山帯に生息する。幼虫は、トホシカメムシ、ツノアオカメムシ、エゾアオカメムシなどのカメムシ科の種に寄生する（Shima, 2006）。森林に生息し、ミズキなどの花に訪花する。
【県内での生息状況】 これまでに、皆野町、毛呂山町、城峯山の記録がある。これまでの観察例から、渓流や小流に近い環境を好む可能性があり、森林と接した水辺の環境保全が重要な要素となると思われる。
【特記事項】 ヒラタヤドリバエ族の種は色彩変異が大きく、とても同種と思えない程の違いが生じるため、同定には充分な注意が必要。

科　名　クサアブ科
〔和　名〕 **ネグロクサアブ**
〔学　名〕 *Coenomyia basalis* Matsumura

埼玉県(2018)　NT2　環境省(2015)　DD
指定状況　－

【形　　態】 体長 14 ～ 25mm の大型の種で、メスはオスよりかなり大きい。オスの体色は黒色、メスの体色は黄～赤褐色で、共に黄～黄褐色毛を密生し、翅は褐色を帯びる。特にメスでは体に対して頭部が小さい。

【国内分布】 北海道、本州、四国、九州

【主な生息環境】 埼玉県では 5 ～ 7 月に台地・丘陵帯～低山帯の湿地で発生するが局所的。幼虫の生態は確認されていないが、成虫が林間の湿地で見出されることから幼虫も湿地に依存している可能性が高い。

【県内での生息状況】 これまでに飯能市、毛呂山町、秩父市で記録されている。メス成虫は翅に対して体が大きく重いことから、長距離の移動は不得意と推測され、分布拡大は容易でない事が推測できる。個体数存続には植物相が豊かな草地・混交林に囲まれた湿地の保持が欠かせない。

【特記事項】 大型種であるにも関わらず、成虫の発見例が少ないことから、目立ちにくい生活史を持っている可能性がある。

科　名　ミズアブ科
〔和　名〕 **ヒメキイロコウカアブ**
〔学　名〕 *Ptecticus sinchangensis* Ouchi

埼玉県(2018)　NT2　環境省(2015)　－
指定状況　－

【形　　態】 体長 9 ～ 13mm。体色は黄色～黄褐色の長細い体形で、腹部各節には暗褐色の帯がある。後脚脛節と同脚跗節第 1 節は黒い。

【国内分布】 本州、四国、九州、南西諸島

【主な生息環境】 埼玉県では台地・丘陵帯～低山帯のやや開けた林床に生息する。キノコ類に集まっている事が多く、幼虫はキノコ類を摂食している可能性が高いことが指摘されているが（大石，1998 他）、明確な報告はされていない。日中より夕方の方が比較的活発に活動するようである。

【県内での生息状況】 これまでに滑川町、小川町、毛呂山町、寄居町、秩父市の記録がある。飛翔時の様子はハチ目のアメバチ類に似た印象があるため、採集・記録されにくい可能性がある。本種の存続には、ベニタケ類などのキノコが発生するやや明るい林床の維持が重要。

【特記事項】 近似種に普通種のキイロコウカアブがあるが、こちらは体長 12 ～ 28mm と明らかに大型で腹部はやや幅広く、翅は薄黄色で先端部は黒色を帯びる。また後脚脛節、同脚跗節に黒色部分は無い。

科　名　アブ科
〔和　名〕 **マツムラヒメアブ**
〔学　名〕 *Silvius* (*Silvius*) *matsumurai* Kono et Takahasi

埼玉県(2018)　NT2　環境省(2015)　－
指定状況　－

【形　　態】 体長 9 ～ 13mm。体色は黄色～黄褐色の種で、メスの額には三角形に近い黒い大きな額瘤があり、頬には円形で黒褐色の上側瘤がある。

【国内分布】 北海道、本州

【主な生息環境】 埼玉県では大宮台地、台地・丘陵帯～低山帯で発生している。全国的に記録が少なく、また生態面の報告もほとんどないが、本県の近年の記録が湿地及びその周辺である事から、湿地性の種と推定される。人畜への吸血性は無いとされる。

【県内での生息状況】 これまでに、毛呂山町、飯能市、北本市で記録されている。飯能市・北本市の記録は林に囲まれた湿地。植物相が豊かな草地・混交林に囲まれた湿地を維持することが本種の個体群維持につながるものと考えられる。

【特記事項】 タイワンヒメアブに似ているが、マツムラヒメアブの額瘤は大きく明瞭なことで明確に区別できる。

科　名　ツリアブ科
〔和　名〕 **タイワンハラボソツリアブ**
〔学　名〕 *Systropus liuae* Nagatomi, Tamaki et Evenhuis

埼玉県(2018)　NT2　環境省(2015)　－
指定状況　－

【形　　態】 体長約 21mm。コンボウアメバチ類（ハチ目）に似た体形の非常に細長い種で、背板の中側斑を欠く。

【国内分布】 本州

【主な生息環境】 埼玉県での分布は広く、大宮台地・荒川以西の低地帯、台地・丘陵帯、低山帯まで広がる。7～9月に発生し、明るい林縁や沢沿いの草むらなどで、ホバリングしながら各種の花で吸蜜する。ツリアブ科の幼虫は一般的に様々な昆虫の卵塊・幼虫・蛹に寄生するが、本種の生態は不明。

【県内での生息状況】 これまでに、北本市、旧江南町（現熊谷市）、神川町、長瀞町で記録されている。発生地では、スズキハラボソツリアブと混生することがあり、生態は似ている事が推察されるが、本種の方がより低地に広く分布している。草花の咲く明るい林縁や草むらの環境維持が本種の生息には重要と思われる。

【特記事項】 本種は埼玉県江南町で採集された標本に基づき、新種として命名された（Nagatomi *et al*, 2000）。スズキハラボソツリアブとは大きさ色彩など極めて良く似ている。本種には胸部背板に黄色い側斑が無く、後脚跗節第1節は黄色で後半部分が黒ずむ点でスズキハラボソツリアブと区別できる。

科　名　ツリアブ科
〔和　名〕 **キムネハラボソツリアブ**
〔学　名〕 *Systropus luridus* Zaitzev

埼玉県(2018)　NT2　環境省(2015)　－
指定状況　－

【形　　態】 体長約 15～16mm。小型のコンボウアメバチ類（ハチ目）に似た体形の非常に細長い種。後胸腹板は黄色。

【国内分布】 本州

【主な生息環境】 埼玉県では、夏～秋にかけて発生し、低山帯～山地帯の林縁や沢沿いでホバリングしながら各種の花で吸蜜する。タイワンハラボソツリアブやスズキハラボソツリアブより標高の高い所に分布する。本種の幼虫の寄主はイラガ科（チョウ目）とされている。

【県内での生息状況】 これまでに秩父市のいくつかの地点で記録されているが、近年の記録は見あたらない。他県では局地的に記録が報告されている。

【特記事項】 タイワンハラボソツリアブやスズキハラボソツリアブと全体的に似ているが、本種はひとまわり小型で、後胸腹板が黄色いことで明確に区別できる。

科　名　ツリアブ科
〔和　名〕 **スズキハラボソツリアブ**
〔学　名〕 *Systropus suzukii* Matsumura

埼玉県(2018)　NT2　環境省(2015)　－
指定状況　－

【形　　態】 体長約 20mm。コンボウアメバチ類（ハチ目）に似た体形の非常に細長い種で、背板に中側斑を備える。

【国内分布】 本州、四国

【主な生息環境】 埼玉県では台地・丘陵帯～低山帯に分布する。7～9月に明るい林縁や沢沿いの草むらでホバリングしながら各種の花で吸蜜する。キムネハラボソツリアブと同様に、本種の幼虫の寄主はイラガ科（チョウ目）とされている。群馬県では亜高山帯でのみ記録されており、今後の調査でより高地での生息が確認される可能性がある。

【県内での生息状況】 これまでに毛呂山町、越生町、長瀞町、小鹿野町で記録されている。発生地では、タイワンハラボソツリアブと混生することがあり、生態は似ている事が推察される。草花の咲く明るい林縁や草むらの環境維持が本種の生息には重要と思われる。

【特記事項】 タイワンハラボソツリアブと大きさ色彩など極めて良く似ている。スズキハラボソツリアブは胸部背板に黄色い側斑を備え、後脚跗節第1節全体が黄色であることでタイワンハラボソツリアブと区別できる。

科　名　ムシヒキアブ科

埼玉県(2018)　NT2　環境省(2015)　－

〔和　名〕 **コーカサスイシアブ**

〔学　名〕 *Choerades caucasicus* (Richter & Mamaev)

指定状況　－

【形　態】 体長 17 ～ 22mm。体色は黒～銅黒色で、腹部を中心に金黄色～赤褐色の長毛をやや密に備える。吻は左右から平圧され先端は斜めに断裁状で、真っすぐ前方へ伸びる。

【国内分布】 本州

【主な生息環境】 埼玉県では低山帯で記録されている。詳しい生活史などは不明ながら、近似種の生態から森林中に生息し、幼虫は朽木で生息することが推測できる。林道の陽だまりの朽木上で得られた例がある。

【県内での生息状況】 これまでの記録は、秩父市。植物相が豊かな草地・水辺を備えた混交林の保全が、本種の個体数維持には欠かせない。

【特記事項】 イッシキイシアブに似ているが、本種オスの腹部腹板第7節後縁中央に切れ込みがあり、同第 8 節後縁中央には突起があることで、区別できる。日本昆虫目録・ハエ目（2014）では、本州のみの分布と記載されているが、四国の記録も報告されている。

科　名　ハナアブ科

埼玉県(2018)　NT2　環境省(2015)　－

〔和　名〕 **ミツオビヒゲナガハナアブ**

〔学　名〕 *Chrysotoxum coreanum* Shiraki

指定状況　－

【形　態】 体長約 18mm の大型種。体色は青色光沢のある黒色で、触角は長い。額突起は長く、額は黄色で黒い中縦条があり、頬は黒色。腹部の各節に白く細い横帯を備える。

【国内分布】 北海道、本州、四国

【主な生息環境】 埼玉県では低山帯～山地帯に生息する。夏に発生し、森林の林縁で様々な植物に訪花する。県外の事例では、低地で採集された例もあり、生息に適した環境が残っていれば、発生の可能性があると思われる。

【県内での生息状況】 これまでに、秩父市の記録が複数あるが、生息数は非常に少ないと思われる。個体数維持には植物相が豊かな草地・水辺を備えた混交林が必要と思われる。

【特記事項】 生時の外観（色彩・大きさ）はクロスズメバチ類に極めて似ており、擬態の精度は高い。

科　名　ハナアブ科

埼玉県(2018)　NT2　環境省(2015)　－

〔和　名〕 **ニトベベッコウハナアブ**

〔学　名〕 *Volucella linearis* Walker

指定状況　－

【形　態】 体長約 20mm。胸背部が赤褐色を呈した顕著な色彩が特徴。翅の前縁部の暗色が濃く、暗褐色紋もある。

【国内分布】 北海道、本州、四国、九州

【主な生息環境】 埼玉県では、6 ～ 8 月に台地・丘陵帯～低山帯に生息する。次種スズキベッコウハナアブと同様に、幼虫はスズメバチ類の巣内に寄生するため（松浦，2000；岩田，2010）、スズメバチが好む里山が生息適地となる。また成虫は薄暮の時間に樹液に集まるため、適した雑木林が必要。

【県内での生息状況】 これまでに、秩父市、東秩父村、越生町、毛呂山町に記録があるが局地的。近似種のスズキベッコウハナアブよりやや標高が高いエリアが主要発生地と思われ、微妙に住み分けている可能性がある。

【特記事項】 人の生活圏内でのスズメバチの巣の駆除は、本種の幼虫の生息場所減少という点で、本種にとっては不利となる。

科　名　ハナアブ科

〔和　名〕 **スズキベッコウハナアブ**

〔学　名〕 *Volucella suzukii* Matsumura

埼玉県(2018)　NT2　環境省(2015)　－

指定状況　－

【形　　態】 体長約 12 ～ 16mm でニトベベッコウハナアブより小型。胸背部が赤褐色を呈した顕著色彩が特徴。翅は全体淡褐色。

【国内分布】 本州、四国

【主な生息環境】 埼玉県では、夏に大宮台地・荒川以西の低地帯、台地・丘陵帯に生息する。ニトベベッコウハナアブと同様に、幼虫はスズメバチ類の巣内に寄生するため（松浦, 2000；岩田, 2010）、スズメバチが好む里山が生息適地となる。また成虫は薄暮の時間に樹液に集まるため、適した雑木林が必要。

【県内での生息状況】 これまでに、熊谷市、嵐山町、滑川町、加須市、さいたま市の記録・報告がある。近似種のニトベベッコウハナアブより標高が低いエリアが主要発生地と思われる。特に、さいたま市の発生地では毎年安定して発生が報告されている。

【特記事項】 平地性が強い分、生息域では安全面からスズメバチの巣の駆除圧は大きく、本種の幼虫の生息には不利に作用している。

科　名　ハナアブ科

〔和　名〕 **カワムラモモブトハナアブ**

〔学　名〕 *Merodon kawamurae* Matsumura

埼玉県(2018)　NT2　環境省(2015)　－

指定状況　－

【形　　態】 体長 7 ～ 11mm。後腿節が太い小型種で、腹部第 2 背板に 1 対の三角橙黄色紋、第 3・第 4 背板には 1 対の弧状横帯を備える。

【国内分布】 本州、四国、九州

【主な生息環境】 埼玉県では、春に台地・丘陵帯で発生する。ヒガンバナやキツネノカミソリに産卵し、幼虫は植物体を摂食して成長する（玉木, 1991）。ヒガンバナやキツネノカミソリは自然状態では、あぜ道や雑木林の林床に自生に適しており、このような環境が本種の幼虫の生育に重要と思われる。

【県内での生息状況】 これまでの記録は毛呂山町のみ。近年はヒガンバナの群生地を観光用に整備することがあり、このような場所は本種にとって生息適地になりえると思われるが、今のところ個体数が増えている様子は見られない。今後の動向に注意する必要がある。

【特記事項】 本種の産卵や幼虫の生態は、埼玉県の故 玉木長寿氏によって明らかにされたものである。

科　名　ハナアブ科

〔和　名〕 **ヒサマツハチモドキハナアブ**

〔学　名〕 *Ceriana japonica* (Shiraki)

埼玉県(2018)　NT2　環境省(2015)　－

指定状況　－

【形　　態】 体長約 15 ～ 18mm。体色は黒、肩瘤は黄色、腹部第 2・第 3 節に橙黄色の横帯を備え、額突起は細く長い管状。頭頂は黒でごく小さな黄紋がある。腹部の基部はくびれない。

【国内分布】 本州、四国、九州

【主な生息環境】 埼玉県では、3 ～ 6 月に大宮台地・荒川以西の低地、台地・丘陵帯、低山帯で発生する。森林や雑木林の中や周辺の明るい草地を主な活動範囲としている種で、しばしば訪花する。

【県内での生息状況】 これまでに、寄居町、毛呂山町、秩父市、さいたま市の記録がある。非常に特徴的な種であり、記録が少ないことは、実際の個体数がかなり少ないことに起因すると思われる。個体数維持には里山の維持が求められる。

【特記事項】 本種やハチモドキハナアブ、ケブカハチモドキハナアブは、ドロバチ類（ハチ目）に擬態していると思われる。

科　名　ハナアブ科

埼玉県(2018)　NT2　環境省(2015)　－

〔和　名〕 **ハチモドキハナアブ**

〔学　名〕 *Monoceromyia pleuralis* (Coquillett)

指定状況　－

【形　　態】 体長 17 ～ 20mm。体色は黒、肩瘤は黄色、腹部第 2・第 3 節に橙黄色の横帯を備え、額突起は細く長い管状。腹部第 2 節は細くくびれる。

【国内分布】 本州、四国、九州

【主な生息環境】 埼玉県では、初夏～秋に大宮台地・荒川以西の低地、台地・丘陵帯、低山帯で発生する。森林や雑木林のクヌギなどの樹液に集まり、産卵行動も見られる。標高の低い雑木林が主たる発生地と思われる。

【県内での生息状況】 これまでに、秩父市、長瀞町、嵐山町、川島町、吉見町、北本市、入間市、坂戸市、熊谷市、東松山市、上尾市、越谷市、さいたま市で記録されている。クヌギなどの樹液に集まる習性があるが、夏期の樹液は採集者の目に留まりやすいために比較的記録が多いものと思われる。

【特記事項】 ヒサマツハチモドキハナアブ、ケブカハチモドキハナアブとは良く似ているが、本種は腹部第 2 節が強くくびれていることで、他の 2 種と区別できる。

科　名　ハナアブ科

埼玉県(2018)　NT2　環境省(2015)　－

〔和　名〕 **カクモンハラブトハナアブ**

〔学　名〕 *Mallota abdominalis* (Sack)

指定状況　－

【形　　態】 体長 10 ～ 12mm。腹背板には黄～赤褐色の斑紋を備え、特に第 2 節の紋はやや角ばり大きい。

【国内分布】 本州、四国、九州、南西諸島

【主な生息環境】 埼玉県では、5 ～ 8 月に台地・丘陵帯～低山帯で発生する。湿地を好み、湿地の地面近くの草間を低く飛翔する様子が観察されている。幼虫の生態は不明であるが、湿地と関係が深いと推測される。成虫は各種植物に訪花する。

【県内での生息状況】 これまでに飯能市、毛呂山町、越生町で記録されているが局地的。飯能の発生地では安定しては毎年発生している。低標高の湿地は減少しつつあるが、本種の個体数維持のためには植物相が豊かな草地・混交林に囲まれた湿地の維持が欠かせない。

【特記事項】 細部では全く異なるものの、一見 他属のハナアブ類に似た色彩の種であるため、同定には注意が必要。

科　名　ハナアブ科

埼玉県(2018)　NT2　環境省(2015)　－

〔和　名〕 **シロスジナガハナアブ**

〔学　名〕 *Milesia undulata* Vollenhoven

指定状況　－

【形　　態】 体長 20 ～ 22mm の大型種。腹部第 2 節に左右に分かれた白色部分があり、ハチ目有剣類の様なくびれを模している。頭頂、額、顔、触角は橙黄色。

【国内分布】 北海道、本州、四国、九州

【主な生息環境】 埼玉県では、台地・丘陵帯、低山帯、山地帯に生息し、春～夏に発生する。成虫はしばしば樹木の花などに訪花する。幼虫はクリ等の樹木の腐朽部で成長すると思われる（飯嶋，2016）。里山を好むと思われる。

【県内での生息状況】 これまでに、本庄市、皆野町、小鹿野町、秩父市、寄居町、越生町、日高市、飯能市の記録がある。個体数は少ないが、大型で目立つ種なので記録数は比較的多いものと思われる。

【特記事項】 特異な腹部の斑紋を備えることで、同定は容易。くびれに見える腹部基部の模様は、ハチ目の腰のくびれを色彩で擬態したものと言われる。

科　名　ハナアブ科

埼玉県(2018)　NT2　環境省(2015)　－

〔和　名〕 **ムナキハナアブ**

〔学　名〕 *Pterallastes uniclor* (Shiraki)

指定状況　－

【形　　態】 体長 14 ～ 15mm。胸背部は黄色粉に覆われ、腹部背板は黒褐色で黄～黄灰色毛で覆われる。後脚腿節は肥大しない。

【国内分布】 北海道、本州、四国、九州

【主な生息環境】 埼玉県では、低山帯、山地帯、亜高山帯に生息する。夏に、森林環境で発生する。明るい林縁で各種の植物に訪花する。

【県内での生息状況】 これまでに、本庄市、秩父市の記録がある。外観の似ているオオモモブトハナアブ・カオグロオオモモブトハナアブより、標高の高いエリアに分布すると思われる。

【特記事項】 色彩や体形が類似した近似種がいくつかいるが、翅脈が特徴的であり、R4+5 脈が著しく湾曲する事を確認できれば同定は容易。

科　名　ハナアブ科

埼玉県(2018)　NT2　環境省(2015)　－

〔和　名〕 **ヒメハチモドキハナアブ**

〔学　名〕 *Takaomyia johannis* Herve-Bazin

指定状況　－

【形　　態】 体長 13 ～ 14mm。胸部は黒色で黄色の線状紋があり、腹部は赤褐色で基部が著しくくびれ、黄色紋がある。

【国内分布】 北海道、本州、四国、九州、南西諸島

【主な生息環境】 埼玉県では、台地・丘陵帯～低山帯に生息する。春～夏に発生し、林内の木漏れ日にあたった場所を低く飛翔したり、朽木に集まってその上部を飛翔したりする。幼虫は朽木中で成長する。

【県内での生息状況】 これまでに、小鹿野町、神川町、皆野町、本庄市、秩父市、飯能市の記録がある。個体数は少ないが、植物相が豊かな草地・水辺を備えた混交林には広い範囲に分布していると思われる。

【特記事項】 本種は、トックリバチ類に擬態しているとされることがあるが、色彩と形態からはホソアシナガバチ類の方により類似していると思われる。近似種のムツボシハチモドキハナアブは腹部が黒色ベースで、後脚腿節・脛節に黒色部が明確に現れることで区別できる。

科　名　ハナアブ科

埼玉県(2018)　NT2　環境省(2015)　－

〔和　名〕 **ジョウザンナガハナアブ**

〔学　名〕 *Temnostoma jozankeanum* (Matsumura)

指定状況　－

【形　　態】 体長 18 ～ 24mm の大型種。黒色で、橙黄色の微粉により、胸部背面と腹部に斑紋と横縞模様を備えるため、黒黄の縞模様となる。。

【国内分布】 北海道、本州、四国

【主な生息環境】 埼玉県では、台地・丘陵帯、低山帯、山地帯に生息する。夏に現れ、明るい林縁などの各種植物に訪花する。幼虫は朽木中で成長すると思われる。

【県内での生息状況】 これまでに、秩父市、入間市の記録がある。入間市の記録地は近年でも継続して発生が確認されており、低標高の発生地として大変貴重である。

【特記事項】 本種はスズメバチ類に擬態しており、飛翔時は非常に良く似ているとされる。ヨコジマナガハナアブ、ヒメヨコジマナガハナアブとはやや似ているが、本種の顔には太い黒条が無いことで区別できる。

科　名　ハナアブ科
〔和　名〕 **フタオビアリノスアブ**
〔学　名〕 *Metadon bifasciatus* (Matsumura)

埼玉県(2018)　NT2　環境省(2015)　－
指定状況　－

【形　態】 体長 11 ～ 15mm。触角は長く、黒色の種。腹部背板第 1 ～ 3 節後縁及び腹端部に黄色毛帯がある。

【国内分布】 北海道、本州、四国

【主な生息環境】 埼玉県では、台地・丘陵帯、低山帯、山地帯に生息する。アリノスアブ類は、名前の通り幼虫がアリの巣に寄生し成長する。本種はシワクシケアリの巣に寄生する種で（丸山・小松，2013）、初夏～夏に発生する。発生環境としては湿地を好むが、湿地外でも得られる事がある。

【県内での生息状況】 これまでに、秩父市、本庄市、入間市、飯能市の記録がある。湿地で草間を低く飛ぶ様子を見ることが多いことから、継続的発生の為には、植物相が豊かな草地・混交林に囲まれた湿地が重要と思われる。

【特記事項】 本種は近縁のアリノスアブ類と同様にアリの巣に寄生するが、近似種の様に腹部が幅広く丸味を帯びることは無く、比較的細長い体形である点が特徴。

科　名　ハナアブ科
〔和　名〕 **コブアリノスアブ**
〔学　名〕 *Microdon shirakii* Reemer et Stahls

埼玉県(2018)　NT2　環境省(2015)　－
指定状況　－

【形　態】 体長 9 ～ 13mm。黒～暗赤褐色の体色で、腹部背板第 2 ～ 4 節の後縁に金黄色毛帯を備える。翅は、主に翅脈に沿って茶褐色を呈する。

【国内分布】 本州

【主な生息環境】 埼玉県では、大宮台地・荒川以西の低地帯、台地・丘陵帯、低山帯に生息する。5 月下旬を中心に発生し、林縁部や草むら上部などの明るい環境で活動する。幼虫はハリブトシリアゲアリに寄生する（丸山・小松，2013）。

【県内での生息状況】 これまでに、秩父市、寄居町、毛呂山町、上尾市、さいたま市の記録がある。幼中の寄生先であるハリブトシリアゲアリは雑木林の樹木に営巣するため、本種の個体数維持には植物相が豊かな草地・水辺を備えた混交林の里山が必要。

【特記事項】 本種は近縁のアリノスアブ類と同様にアリの巣に寄生するが、樹上営巣性のアリに寄生する点で特異的。

科　名　デガシラバエ科
〔和　名〕 **オオハチモドキバエ**
〔学　名〕 *Eupyrgota luteola* Coquillett

埼玉県(2018)　NT2　環境省(2015)　－
指定状況　－

【形　態】 体長約 17mm の大型のデガシラバエ。黄褐色～赤褐色の体色であるが、胸部背面～腹部背板の色彩は変異が著しく、黄色・赤褐色・黒褐色が入り混じった様々な配色が現われる。各腿節は概ね黄褐色。

【国内分布】 本州、九州

【主な生息環境】 埼玉県では、荒川以西の低地～台地・丘陵帯に生息する。夏に発生し、里山周辺で見つかる。同科別種に関する海外の研究例では、飛翔中のコガネムシ類を襲い、産卵する（寄生する）習性があることが報告されており（玉木，1994）、本種も類似の生態を持つことが予想されている。ライトトラップにも飛来する。

【県内での生息状況】 これまでに、越生町、ふじみ野市の記録がある。本種の個体数維持には、明るい里山と周辺の緑地環境が必要と思われる。

【特記事項】 本種はスズメバチ類に擬態していると思われる。近似種のフトハチモドキバエは触角溝中に黒褐色部を備え、各腿節の基半部が黒褐色である点で区別できる。

科　名　デガシラバエ科
〔和　名〕 **コマダラハチモドキバエ**
〔学　名〕 *Campylocera thoracalis* Hendel

埼玉県(2018)　NT2　環境省(2015)　－
指定状況　－

【形　態】 体長約 7mm。黒色と黄色の部分が入り混じる。胸背中央と両側には暗褐色縦条を備え、小楯板前は黄色を呈する。腹部は黒褐色。翅には複数の褐色斑がある。

【国内分布】 本州、四国

【主な生息環境】 埼玉県では、荒川以西の低地～台地・丘陵帯に生息する。夏に里山の周辺で見つかるが、寄生する生物などの詳しい生態はわかっていない。

【県内での生息状況】 これまでに、小川町、毛呂山町の記録がある。本種の個体数維持には、明るい里山と周辺の緑地環境が必要と思われる。

【特記事項】

科　名　ヤチバエ科
〔和　名〕 **フタスジヤチバエ**
〔学　名〕 *Ditaeniella grisescens* (Meigen)

埼玉県(2018)　NT2　環境省(2015)　－
指定状況　－

【形　　態】 体長 3.5 ～ 5mm の小型の種。概ね黄褐色で、灰褐色の微粉に覆われる。前胸基腹板は有毛。

【国内分布】 北海道、本州

【主な生息環境】 埼玉県では、中川・加須低地、大宮台地、荒川以西の低地、台地・丘陵帯の生息する。湿地や休耕田などの環境を好むが、県外では海岸の背の低い草むらにも生息する。従来は北海道の記録しかなかったが（田悟・玉木, 2006）、近年 埼玉・千葉・東京で見つかっている。

【県内での生息状況】 これまでに、さいたま市、三郷市、長瀞町の記録があるが、いずれも個体数は少ない。県北東部にも生息すると推測される。

【特記事項】 小型の種であるためヤチバエ科であることが認識し難い。ハイイロマルヒゲヤチバエに比較的似ているが、ハイイロマルヒゲヤチバエの前胸基腹板は無毛で、全体に褐色味が強いことで区別できる。

科　名　ヤチバエ科
〔和　名〕 **ヤマトヤチバエ**
〔学　名〕 *Limnia japonica* Yano

埼玉県(2018)　NT2　環境省(2015)　－
指定状況　－

【形　　態】 体長約 7mm。前額は強く前方に突出する。体色は概ね灰褐色で胸背面には 4 本の暗色条を備える。翅は格子状の網目斑がある。

【国内分布】 本州、四国、九州

【主な生息環境】 埼玉県では、台地・丘陵帯～低山帯に生息する。夏に発生し、里山によく見られる“森林に接した水田の水路や林内の小流”を好み、水辺に沿って自生する雑草間などで活動する。翅を背面で平たく重ねる。本種の生活史はわかっていないが、海外の同属の種の幼虫は、オカモノアラガイやモノアラガイ等を捕食する（末吉, 2005）。

【県内での生息状況】 これまでに、寄居町、越生町、秩父市、日高市、飯能市の記録がある。里山の川や湿地の維持が本種の個体数維持の鍵となる。

【特記事項】 翅の模様は一見クマドリホソバネヤチバエに似た印象があるが、クマドリホソバネヤチバエが楕円状斑であるのに対して、本種は格子状斑である。

科　名　クロバエ科
〔和　名〕 **カエルキンバエ**
〔学　名〕 *Lucilia* (*Bufolucilia*) *chini* Fan

埼玉県(2018)　NT2　環境省(2015)　DD
指定状況　－

【形　　態】 体長 5 ～ 7mm。外観は他のキンバエ類と共通であるがやや小型で、腹部背板第 3 節後縁の中央付近に強い剛毛を備える。腹部背板第 1 ～ 2 節は紫黒色、第 3 節後縁は細く紫黒色に縁取られる。

【国内分布】 本州

【主な生息環境】 埼玉県では、中川・加須低地、大宮台地に生息する。河川敷・湿地・水田の背の低い草むらで採集される例が多く、このような環境を好むとされる。従来は、海外の同亜属の種の生態から『幼虫はカエル類の生体に寄生する可能性が高い』と推測されていたが、本種のメスを使った近年の産卵実験では『鶏肉には産卵したものの、カエルには産卵しなかった』という結果が報告されており、日本のカエルキンバエはカエルの生体に寄生しない可能性が強く示唆された（Yoshizawa・Shima, 2013）。発生は春と秋の 2 化性。

【県内での生息状況】 これまでに、吉川市、さいたま市、桶川市、白岡町、鴻巣市、幸手市の記録がある。現在では河川敷を中心に分布していると考えられる。

【特記事項】 埼玉県では 9 種のキンバエ属が記録されており、混生していて互いに外観が似ている。各種の同定には交尾器の確認が求められるが、カエルキンバエに限っては“腹部背板第 3 節後縁の中央付近に強い剛毛を備える”事で同定は容易。

科　名　ヤドリバエ科

埼玉県(2018)　NT2　環境省(2015)　－

〔和　名〕 **セスジナガハリバエ**

〔学　名〕 *Dexia flavipes* Coquillett

指定状況　－

【形　態】 体長 8.5 ～ 12mm。胸部背面には暗色の細い縦条があり、腹部背板の正中線上に黒色の太い縦条を備える。

【国内分布】 北海道、本州

【主な生息環境】 埼玉県では、台地・丘陵帯～低山帯に生息する。コフキコガネ属の幼虫に寄生するとされる。樹林に生息し、林縁や周辺の草むらで吸蜜などの活動をすると思われる。

【県内での生息状況】 これまでに毛呂山町、飯能市、秩父市の記録がある。本種の個体数維持には里山の維持が欠かせないと思われる。

【特記事項】 ヤドリバエ科の種は同定が難しいため種の決定には注意が必要。

科　名　ヤドリバエ科

埼玉県(2018)　NT2　環境省(2015)　－

〔和　名〕 **キイロコガネヤドリバエ**

〔学　名〕 *Hamaxia incongrua* Walker

指定状況　－

【形　態】 体長 5 ～ 8mm。概ね橙黄色で、複眼と刺毛は黒色。翅脈の R5 室は開口する。

【国内分布】 北海道、本州、四国、九州

【主な生息環境】 埼玉県では、大宮台地・荒川以西の低地、台地・丘陵帯、低山帯に生息する。夜行性と言われており、幼虫はセマダラコガネ、スジコガネ、マメコガネ等に寄生する（Shima, 2006）。夏から秋に発生する。

【県内での生息状況】 これまでに、秩父市、毛呂山町、北本市、伊奈町で記録されている。本種の個体数は少ないが、寄生する種が普通種であるため幅広い分布をしていると思われる。

【特記事項】 ヤドリバエ科の種は同定が難しいため種の決定には注意が必要。